

刈った稲を運ぶ丹波支援学校の生徒たち(南丹市八木町)



育てた稲、刈り取る 丹波支援学校生

丹波支援学校(南丹市八木町)の生徒が、自分たちで育てた田んぼで稲刈りをした。収穫した新米は、給食で味わうという。

学校近くの休耕田を借り、地元農家の指導で8年前から稲作を続けている。

中学部の約50人が1日、鎌を手に田に入り、1時間ほどで2畝を刈り取った。機械で脱穀まで進めた。

3年辻岡芽依菜さん(15)は「硬いところは刈るのが難しかったけど、みんなとやれて楽しかった」。協力する農家の八木進さん(78)は「刈り残しもなく上手にやってくれた。私たちも楽しい1日だった」と目を細めた。

(長谷川 稔)